

平成19年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 地域連携センター

氏 名 梅 澤 実

プロジェクトの名称	幼児期の体験の多様性と関連性に配慮した指導 内容と誘遊財の開発	配 分 予算額	964,000 円
プロジェクトの概要	本研究は、幼児期の体験の多様性と関連性に配慮した指導内容と誘遊財の開発という観点から、学校教育に必要な専門的知識と技能を身につけた確かな実践力のある教員を養成するとともに、現代社会の直面する教育諸課題に応える、優れた判断力と指導力をもった人材を養成するとして本学の教育理念を、幼児教育実践者養成に具現化しようとするプロジェクトである。 文部科学省究開発学校の指定を受け、平成13年度より進めた幼稚園と小学校のなめらかな連携をはかる教育課程開発の結果、幼児期をより充実させる幼稚園教育の必要性が再確認された。また、幼稚園と小学校を貫くカリキュラムの軸として「人間を理解し関係を調整する力」を据え、連携教育課程を作成した。「人間を理解し関係を調整する力」は、さらに21の項目に分化し、関係性を通して学ぶという幼児期から児童期への発達の特性をも反映させるに至った。 このような経過から、平成16年度より、幼児教育の質を向上させるための誘遊財研究（保育環境や文化財に固有の性質をどのようにとらえ、幼児の個性や発達の実情にあわせて構成していくか）を探究してきた。この過程で、「人間を理解し関係を調整する力」を中心に幼児が自分らしさを発揮して、学級集団の中で相互にかかわり合い、葛藤や挫折を体験しながらも、刺激を受け合ったり、認め合ったりなどして自己実現を図りながら、さまざまな学びを獲得していくダイナミックスが明らかになりつつある。本研究では、自然環境の中での協働活動を中心とした遊び体験の促進という視点から取り組んでいく。幼児の興味や関心を喚起させ、これらの体験を促す遊誘財（教材）の開発とそれを用いた指導のあり方について提案すると共に遊誘財のデータベース化をはかるものである。このデータベースは、教育実習において実習生が活用することにより、教員としての実践的力を高めることになる。		
成 果 の 概 要	1. 作成したデータベースは、教育や教員養成の現代的課題である、誘遊財開発の成果は、保育や小学校低学年指導に役立つ教材の提案や活用方法の提案につながるものであり、人との関係性の構築やコミュニケーション能力や教育環境のコーディネート能力の養成を促す具体的方策を提案できる。 2. 附属幼稚園における実践を継続し記録すると共に、その成果の一部をを本年度附属幼稚園研究発表会において公開した。全国の幼稚園および幼児教育施設での実践に活用することが可能なものとなる。 3. 今後、本研究は、上記2により、全国の幼稚園および幼児教育施設での実践と、その成果を検証し、データベースの充実を図り、鳴門教育大学附属幼稚園が、幼児教育の先導的に進めていく基盤を形成することができると期待される。 4. このデータベースは、教育実習において、実習生に活用可能なものであり、実習生に対し、技術的保育方法を学ばせるだけでなく、人との関係性の構築やコミュニケーション能力や教育環境のコーディネート能力の形成に役立つものとなった。特に、1年次の学生全員が受講する「ふれあい実習」は、鳴門市の幼稚園に配属されるが、現在は、実習の内容は幼稚園側に任せているのが現状であるが、このデータベースを使用することにより、事前指導、事後指導の充実が図られるようになっている。		

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。
 2. 概要については、800字程度にまとめること。
 3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。
 4. なるべくパソコン等で作成願います。